

ハイパーサーミア業務における効率化への取り組み

熊本セントラル病院 臨床工学科 緒方 誠樹、内田 朋恵

HT 業務を開始して 2018 年 12 月の時点で約 1 年半が経過し、一通りの業務内容は問題なく出来るようになった。

しかし、オーバーレイボラスの冷却・加温工程による時間遅延や加温部位と電極位置のずれによる時間遅延など問題も出てきた。

今回技士による業務改善で、治療の効率化を図り時間遅延の改善や正確性の向上に繋がったのでその内容をここに報告する。

冷却・加温工程の遅延問題ではベッド昇降時に一旦循環をストップさせ、カプラを外す必要があったため、チューブを延長しカプラを接続したままベッド昇降が出来るように調整を行った。加温部位と電極位置のずれではオーバーレイボラスの設置時に電極の位置と合わないことがあり、その度に電極を一旦戻し、オーバーレイボラスの再調整や患者自体の位置調整をやり直す必要があった。

オーバーレイボラスにターゲットとなる線を引き中心点が目視的にわかるようにし、患者側のずれに対してはベッドの中心が分かるようテープで目印を作ることで、患者の頭と足の位置が確認できるようになった。

今回 HT 業務における業務改善を行い、効率化を図った。この結果、時間遅延の改善や治療の精度上昇に繋がった。今後も常に業務改善を行いより良い治療環境を提供して行きたい。